

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立桜岡小学校
1 前年度 評価結果の概要	・特別支援教育や教育相談を充実させ、「見守りたい子」について組織的に対応する体制を整えてきたことにより一定の成果は見られたが、全体指標である「自分にはよいところがあると思う」は74.7%、「先生はあなたのよいところをほめてくれる」は78.5%と目標には達しなかった。また、感情をコントロールできず、落ち着かない児童が多いこと、学力面では上位と下位の差が大きく、基本的な知識・理解の定着や思考力、判断力には個人差があることが課題である。児童の「自己有用感」を高めるために、一人一人が安心して生活できる集団づくり、豊かな心を育む教育、生徒指導の三機能を生かした授業づくりを推進していく必要がある。
2 学校教育目標	自らを友達を大切に思い、未来に向けて花開こうとする桜っ子の育成 — 日々の積み重ねを大切に学校づくり —
3 本年度の重点目標	「ひとつ・ひとつずつ」を合い言葉に、一人一人の教職員が、学校教育目標の実現に向けての意識を高く持ち、子供の「自己有用感」を高める取組を推進する。 ◆全体指標「自分には、よいところがあると思う」80%以上、先生はあなたのよいところをほめてくれる85%以上 ① 教職員の協働意識・体制の向上……○学校目標と一貫性のある学年目標の設定 ○学年の協働・連動性、校内の報告・連絡・相談 ○学習規律の徹底 ○ICTを活用した授業実践の蓄積 ② 自己実現を図るための生徒指導の三機能を意識した実践……○決めさせ、考えさせ、認め合う授業の実践 ○「出番」「役割」があり、「承認」される授業・活動の創造 ③ 子どもの困り感に寄り添う支援、やさしい子を育む指導の充実……○特別支援教育に関する職員の知識の向上 ○教育相談体制の構築 ○人権・同和教育、いのちの学習等心育てる教育の充実 ○地域人材の活用

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		学校関係者評価		主な担当者
(1)共通評価項目				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組							
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマインの成果指標を達成した教師80%以上 →学校評価職員アンケート	○学期毎に学力向上対策評価シートに自己評価と改善策の記入をすることにより、授業力向上のためのPDCAサイクルの構築を図る。 ・学び合い活動を日常的に実践する。							※かこい子プロジェクト ・学力向上コーディネーター
	○校内研究を軸とした主体的・対話的で深い学びの展開	○「あなたは毎日の授業(学習)がよく分かる」と回答した児童80%以上 →校内研究授業アンケート 学校評価児童アンケート	○全ての授業で、「やってみよう」「かんがえよう」「ためよう」の合い言葉にした「桜岡スタイル」を整理し、構築する。 ○1人1台パソコンをどの段階でどのように活用するか、アイデアを出し合い、ICT活用シートに蓄積する。							※かこい子プロジェクト ・研究主任
	○児童の基本的な学習習慣の育成	○「背・目・手」と「か・つ・お」を共に守れた」と回答した児童80%以上 →学校評価児童アンケート	○生徒指導の3機能を生かした授業作りを進めるとともに授業にUDの視点を取り入れる。 ○学習規律定着のために「背・目・手」「か・つ・お」を言葉に学習の構えを作る。学習の終わりには、学んだことを自分の言葉でふり返り、表現できる児童の育成を目指す。							※かこい子プロジェクト
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分にはよいところがある」と答えることのできる児童80%以上。	○「心を考える日」に人権教室を3回、人権集会1回を実施により、人権週間の充実を図る。 ○絵本の読み聞かせを通して、いのちについて考えさせることで、自他の生命を尊重する心を育てる。							※やさしい子プロジェクト ・人権・同和教育担当 ・教育相談担当 ・道徳教育
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	○いじめの認知・認知の組織的対応マニュアルの共通理解を図る。 ○いじめの対応についての研修・会議を年間に4回以上行う。							※たくましい子プロジェクト ・生活指導担当
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ち高める教育活動	○「あなたは、今がんばっていること(目標)や将来の夢がありますか」について肯定的な回答をした児童(小学校5・6年生)80%以上	○学校行事や体験活動において、目標と振り返りを連動させた活動を充実させる。 ○学級活動等の時間の中で、「出番」「役割」があり、「承認」される授業・活動を創造し、実践を積み重ねる。 ○様々な活動に対する目標や振り返りをキャリアパスポートを活用して行う。							※かこい子プロジェクト ・児童会活動担当 ・委員会活動担当
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70%以上	○わくわくタイムでの共遊(異学年交流)を計画的に実施し、外で遊ぶ楽しさを実感させる。 ○自力登下校や休み時間に遊ぶことを促すような声をかけ、体を動かす習慣化を意識させる。							※たくましい子プロジェクト ・体育主任 ※やさしい子プロジェクト ・異学年交流
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。(1か月45時間、1年間360時間を超えないようにする。)	○校内安全衛生委員会で業務改善の視点から具体的な改善策を検討し、実践につなげる。 ○長時間労働の解消ため、学校行事、会議、研修の精選及び実施方法の工夫を進める。							・教頭 ※校内労働安全衛生委員会(多忙化対策委員会)
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組							
○特別支援教育の充実	○特別支援教育に対する教職員の知識・理解の更新、向上	○見守りたい子の情報共有を行事に生かしたと回答した教員が90%以上	○「配慮を要する児童への接し方や支援の方法」についての職員研修を、講師を招聘して行い、教師の専門性を高める。 ○特別支援学級を学年グループに配置し、「見守りたい子」の情報共有を年4回行い、児童の指導を連携して行う。							※やさしい子プロジェクト ・特別支援教育コーディネーター
○教育相談体制の構築	○悩みを抱える児童の困り感を共有し、対応できる体制の構築	○「心配なことや困っていることがある」と回答した児童が20%以下	○認知した児童の状況について管理職や教育相談担当、担任等と情報共有を行う体制を整備、構築する。 ・すっきりここアンケートの実施 ・「見守りたい子」の共有 ・SC、SSW、SSP、支援センター等との連携							※やさしい子プロジェクト ・教育相談担当
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価	次年度への展望									